

工事計画認可申請書論点の劣化状況評価書への影響と反映内容（4月5日審査会合分）

分類	No.	工認説明項目（論点）	影響	劣化状況評価書への反映内容
耐津波	1	鋼製防護壁の止水機構の地震時における追従性	—	関連する評価なし
耐震	2	可搬型設備の耐震性	—	関連する評価なし
	3	機器の動的機能維持評価	—	関連する評価なし
	4	スタンドパイプの耐震評価	—	関連する評価なし
	5	設置変更許可段階で示した解析用液状化強度特性の代表性及び網羅性 (V-2-1-3 地盤の支持性能に係る基本方針)	△	FRS に影響する可能性があるが、工認側で影響がない見込み
外部事象	6	降下火砕物に対する建屋の健全性	—	関連する評価なし
機械設計	7	S A 時の強度評価における設計方針	—	関連する評価なし
	8	S A 時の強度評価における設計条件	—	関連する評価なし
	9	強度評価における P C V 動荷重の考慮	—	関連する評価なし
	10	S A 環境を考慮した P C V 閉じ込め機能	—	関連する評価なし
	11	ブローアウトパネル及び関連設備の必要機能と確認方法 (V-1-1-6-別添 4 ブローアウトパネル及びブローアウトパネル閉止装置の設計方針（仮称）)	○	ブローアウトパネル閉止装置については 6 月の仕様確定後評価書に反映予定（特殊な機器はない予定）
	12	S R V の S A 耐環境性 (V-1-1-6 安全設備及び重大事故等対処設備が使用される条件の下における健全性に関する説明書 補足-40-11 逃がし安全弁の環境条件の設定について)	—	これまでの雰囲気温度設定 156°C に変更はないため、評価に影響しない
	13	M C C I / F C I 対策に係る設計 (V-1-8-1-別添 2 コリウムシールドの設計)	○	コリウムシールドについては 6 月の仕様確定後評価書に反映予定（特殊な機器はない予定）

○：影響あり △：影響のない見込み —：影響なし

工事計画認可申請書論点の劣化状況評価書への影響と反映内容（5 月 17 日審査会合分）

分類	No.	工認説明項目（論点）	影響	劣化状況評価書への反映内容
耐津波	1	防潮堤ルート変更後の敷地遡上津波の浸水深・流速	－	関連する評価なし
	2	鋼製防護壁の上部構造と下部構造の接合部の評価	－	関連する評価なし
耐震	3	立坑建造物の解析モデル変更	－	関連する評価なし
	4	原子炉建屋基礎盤の耐震評価	－	関連する評価なし
	5	地震観測記録を踏まえた耐震評価への影響 （補足-400-1 地震応答解析における既工認と今回工認の解析モデル及び手法の比較）	△	使用済燃料乾式貯蔵容器の評価に影響はない。また、原子炉建屋に設置する機器についても影響はないものと評価した。
	6	機器の動的機能維持評価（弁の高振動領域の考慮） （補足-340-13 機電分耐震計算書の補足について）	○	工認側に合わせ、劣化状況評価でも高周期帯の評価を行う。（6月上旬完了）。
機器設計	7	ECCS ポンプの SA 時での NPSH 評価 （V-1-4-3 ECCS ポンプの有効吸込水頭に関する説明書、V-1-8-4 圧力低減設備のポンプの有効吸込水頭に関する説明書）	△	経年劣化による塗膜の脱落による影響について、保全による塗膜の管理、塗膜の剥離試験結果を用いて、ストレーナへの影響はないと考えている。 工認側では SA 環境によりドライウエルの塗膜が全量落ちた時の影響を試験することとしており、経年劣化事象ではないことから、延長認可側には影響のない見込み。
	8	S M材の使用制限（2.9MPa）を超えた範囲での使用	－	継続使用可能のため、影響なし

○：影響あり △：影響のない見込み ー：影響なし

工事計画認可申請書論点の劣化状況評価書への影響と反映内容（5 月 31 日審査会合分）

分類	No.	工認説明項目（論点）	影響	劣化状況評価書への反映内容
機器設計	1	燃料集合体落下時の使用済燃料プールライニングの健全性	－	関連する評価なし

－：影響なし

工事計画認可申請書の劣化状況評価書への影響と反映内容（論点以外で影響する可能性のあるもの）

分類	No.	工認説明項目	影響	劣化状況評価書への反映内容
耐震	1	地盤物性見直しに伴う追加評価 (V-2-2-6 取水構造物の地震応答計算書)	○	海水ポンプ室等の地盤物性が見直された結果、最大加速度 1.2ZPA が変更となったため、海水ポンプの基礎ボルト減肉耐震評価については再評価を行う。（7 月末完了予定）
	2	耐震評価のうち等価繰返し回数 (補足-340-2 耐震評価対象の網羅性、既工認との手法の相違点の整理について（添付 8 耐震評価における等価繰返し回数の妥当性確認について）)	△	格納容器内の一括で定める地震時の等価繰返し回数が 110 回から 160 回に変更となった。 160 回での計算を完了し、疲労累積係数が 1 を超えた部分については個別の繰返し回数で再評価中。（7 月上旬完了予定）
内部事象	3	プラント停止時の原子炉建屋オペフロのスロッシング対策 (V-1-1-8-4 溢水影響に関する評価 補足-310-1 工事計画に係る説明資料（その他発電用原子炉の附属施設のうち浸水防護設備）)	△	取り外し可能な止水板を工認対象とするため、必要に応じ劣化状況評価書に反映する (コンクリート構造物及び鉄骨構造物の現在の評価に包絡される見込み)
機器設計	4	環境条件に対する健全性評価 (TK-1-472 主蒸気管破断事故起因の重大事故等時を考慮した場合の影響について)	○	重大事故等時の原子炉建屋内環境条件として考慮すべき事象として「主蒸気管破断」考慮することとなり、原子炉建屋内の SA 設備について温度条件を変更する。これに伴い、劣化状況評価としては電気ペネトレーションの事故時解析について追加評価を実施する。（評価完了、6/5 審査会合終了）
全般	5	SRV 取替について	△	SRV 取替を行うが、重量・重心を変えずに行う予定。また、吹き出し反力については小さくなるため、工認に合わせ、現状の評価を変えないこととする予定。

○：影響あり △：影響のない見込み